

平成 19 年 10 月 26 日

各 位

 会 社 名 株 式 会 社 ドリコム  
 代 表 者 代 表 取 締 役 内 藤 裕 紀  
 (コード番号:3793 東証マザーズ)  
 問 い 合 わ せ 先 経 営 管 理 本 部 長 清 水 武  
 電 話 0 3 - 5 7 9 1 - 4 5 5 5

**平成20年3月期中間および平成20年3月期業績予想の修正  
ならびに事業体制の最適化に関するお知らせ**

株式会社ドリコム(本社:東京都渋谷区、代表者:代表取締役 内藤裕紀、東証マザーズ 3793)は、平成 19 年 5 月 17 日に公表した平成 20 年 3 月期中間期(平成 19 年 4 月 1 日～平成 19 年 9 月 30 日)の業績予想および平成 20 年 3 月期(平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日)の業績予想を下記のとおり修正いたしましたので、事業体制の最適化と合わせてお知らせいたします。

記

1. 平成 20 年 3 月期中間期(平成 19 年 4 月 1 日～平成 19 年 9 月 30 日)

【連結】

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益	1株当たり 中間純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	1,000	△50	△70	△130	△6,550 11
今回発表予想(B)	950	△170	△180	△340	△16,915 42
増減額(B-A)	△50	△120	△110	△210	△10,365 31
増減率	△5.0%	—	—	—	—
(ご参考) 前期(平成 19 年 3 月期中間期)実績	504	46	57	36	1,836 65

【個別】

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益	1株当たり 中間純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	400	△130	△135	△140	△7,053 96
今回発表予想(B)	340	△260	△270	△330	△16,417 91
増減額(B-A)	△60	△130	△135	△190	△9,363 95
増減率	△15.0%	—	—	—	—
(ご参考) 前期(平成 19 年 3 月期中間期)実績	503	58	70	41	2,084 33

## 2. 平成 20 年 3 月期(平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日)

**【連結】**

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益	
	百万円	百万円	百万円	百万円	円	銭
前回発表予想(A)	2,430	300	270	40	2,015	42
今回発表予想(B)	2,200	50	0	△180	△8,955	22
増減額(B-A)	△230	△250	△270	△220	△10,970	64
増減率	△9.4%	△83.3%	△100.0%	—	—	—
(ご参考) 前期(平成 19 年 3 月期)実績	843	△249	△181	△114	△5,771	51

**【個別】**

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益	
	百万円	百万円	百万円	百万円	円	銭
前回発表予想(A)	1,100	20	15	10	503	85
今回発表予想(B)	900	△220	△270	△330	△16,417	91
増減額(B-A)	△200	△240	△285	△340	△16,921	76
増減率	△18.1%	—	—	—	—	—
(ご参考) 前期(平成 19 年 3 月期)実績	800	△172	△134	△85	△4,327	09

## 3. 平成 20 年 3 月期中間業績予想の修正理由

平成 20 年 3 月期中間個別業績予想の修正理由につきましては、主に Web サイト構築・更新システム「ドリコム CMS」のパッケージ版において複数の大型案件を失注したことによります。また、上記理由により売上高が 15%減少したこと、およびシステム外注費の発生などで費用が 13%増加したことに伴い、営業利益が当初見通しに対して下回る結果となりました。中間純利益の予想修正に関しましては、株式会社ドリコムマーケティングの事務所移転に係る特別損失の発生(29 百万円)および繰延税金資産(66 百万円)を取崩したことに伴うものです。

なお、当社グループ会社である株式会社ジェイケン、株式会社ドリコムマーケティングおよび株式会社ドリコムジェネレーティッドメディアの業績は当初の見通しどおり推移しております。

## 4. 平成 20 年 3 月期個別業績予想の修正理由

平成 20 年 3 月期個別業績予想の修正理由につきましては、平成 20 年 3 月期中間個別業績予想の修正理由に加えて、平成 20 年 3 月期下期予算の見直しに伴う売上高予算の減額ならびにシステム外注費および販売管理費予算の増額によるものです。

平成 20 年 3 月期連結業績予想の修正理由は、グループ会社3社の業績が寄与する見込みのため、個別業績予想と相違ありません。

この度の結果を受けまして、下記のとおり事業体制を最適化することで、平成 20 年 3 月期下期で約 1 億円の費用削減効果を見込むとともに、当社グループの収益力の強化を図ります。

当社は、投資ビジネスにおいて選択と集中を図るとともに、収益ビジネスに経営資源を集中させます。また、グループ会社3社の業績は順調に推移しているため、引き続き業績拡大に努めることで、ドリコムグループとして売上高の拡大および営業利益の黒字化を目指します。

## 1. ビジネスの選択と集中

- ブログ・SNS 構築システム製品「ドリコム SNS／ドリコムブログシステム」は開発体制を強化。
- 社内ブログ(SNS)構築パッケージ「ドリコムブログオフィス」は、平成19年8月に資本業務提携したNECネクサソリューションズ株式会社との開発・営業連携を中核として、より一層注力。
- インターネット広告分野は、新たなビジネスの柱とすべく平成19年3月にサービスを開始した広告マーケットプレイス「スペースハンター™」の開発・営業体制の強化。また、新規インターネット広告商材の開発を進めるなど投資活動を強化拡大。
- 株式会社ジェイケン は、グループシナジーを活かして着信メロディ配信ビジネスに続く新規ビジネスを開発。
- 株式会社ドリコムマーケティングは、グループの営業の柱として更に営業体制を強化。
- 株式会社ドリコムジェネレーティッドメディアは、CGM 分野への投資を強化。

また、収益が見込めないサービス・製品は、新規開発を停止することで開発体制を縮小するとともに、営業体制も縮小します。

## 2. 販売管理費および売上原価の削減

- 派遣費用の削減。
- グループ内での人員配置を適正化させることで、各社の新規採用費用を削減。
- 株式会社ドリコムマーケティングの事務所移転。
- システム外注費の削減。

また、業績予想の修正および事業体制の最適化についての経営責任を明確にするため、取締役3名の役員報酬額を下記のとおり減額いたします。

### 1. 対象者:代表取締役 内藤 裕紀

期 間:平成19年6月から平成20年3月までの10か月間

減 額:役員報酬を全額減額

### 2. 対象者:取締役 安藤 正樹

期 間:平成19年10月から平成20年3月までの6か月間

減 額:役員報酬を80%減額

3. 対象者:取締役 新井 元基

期 間:平成19年10月から平成20年3月までの6か月間

減 額:役員報酬を40%減額

以 上